

広がる役割と領域 社会ニーズに応える 薬学教育

社会の変化や地域に目を向け、現場を支えられる薬剤師に

高齢化がさらに加速する中、薬剤師が果たすべき役割は変化しています。服薬支援に加え、未病段階での健康維持や軽度な身体の不調時のセルフケア・セルフメディケーションの支援、在宅療養での訪問指導など、より長いスパンのサポートが求められています。一方で人材は不足しており、特に地方ではより深刻です。どこに暮らしていても医薬品が適切に供給される体制をつくるには、若い人材が地方に目を向けることが重要です。地方では地域課題への深い関わり、多職種との密な連携など、都市部以上の貴重な経験も得られるはずです。

薬学は、薬を通して人々の健康に貢献する学問です。キャリアは薬局や病院勤務にとどまらず、企業での研究開発や薬事行政など多岐にわたり、勤務地の選択肢も豊富です。薬学教育は6年制になり、医療DXの活用や多職種連携など、現場に直結する力の養成がより重視されています。学ぶべきことが多い6年ですが、国家試験の合格はゴールではなく、薬剤師としての第一歩。「生涯研鑽^{けんさん}」の姿勢を忘れず、常に学び続けることで、いつまでも成長できる点も薬剤師の魅力です。ぜひ多くの方に目指していただきたいと思います。

団塊の世代が75歳以上となる2025年を迎え、医療を支える薬剤師の役割は多様化しています。これからの薬剤師に求められる人材像と薬学教育のあり方について、日本薬剤師会常務理事の山田武志さんにお話を聞きました。



公益社団法人
日本薬剤師会常務理事

山田 武志さん

●1997年日本大学薬学部卒業。同年日本ベーリンガーインゲルハイム(株)入社。2003年(株)Y&A設立、同年厚生堂薬局開局。24年日本薬剤師会常務理事(薬学教育委員会担当理事、生涯学習委員会担当理事)に就任。24年国立研究開発法人国立長寿医療研究センター認知症医療介護推進会議委員、同年一般社団法人日本認知症予防学会理事。